

## 新訳・注解付き『共産者達の宣言』

カール・マルクス＝フリードリッヒ・エンゲルス著 1848年

### 目次

- I ブルジョアとプロレタリア
- II プロレタリアと共産主義者
- III 社会主義者と共産主義者の文献（略）
- IV 種々の反対党に対する共産主義者の立場

(ドイツ語テキストは、インターネット「カール・マルクス／フリードリッヒ・エンゲルス」サイト アドレス <http://www.mlwerke.de/me/default.htm> のある当該テキストの表示 [http://www.mlwerke.de/me/me04/me04\\_459.htm#Kap\\_I](http://www.mlwerke.de/me/me04/me04_459.htm#Kap_I) から、簡単にダウンロードできる。読者は、各自の自発的行動として、ドイツ語原文を是非ご確認いただきたい)

訳者のまえがき—私が所属する「ワーカーズ・ネット」は、マルクス革命理論の核心をアソシエーション革命論と考えている。それは従来の政治革命か社会革命かとのレベルを超えており、両者の密接不可分な関係を大きく包含する革命論である。そして、このアソシエーション革命に関してのマルクスの最良の文献といえ、この著作を以て、理論的にも歴史的にも嚆矢とする。簡潔な著作ながらもその重要性には特記すべきものがある。

しかしながら、現在入手できる既成の翻訳本は、確かに数種あるが、マルクスの思想の重要な部分に、残念ながら、呆れるほどの誤訳がある。そのため、読者にはマルクスの思想の核心がよくつかめないものになってしまっている。実際、これらの重要な部分で、4回もアソシエーションの言葉が使われているのに、ほとんどの訳書はそのことが分かるように訳してはいない。たとえば、今でも一番容易に入手できる岩波文庫から出ている『共産党宣言』を読んでみることだ。この本はそれと分かるようには全く訳されていない最悪

の本である！その負の影響は、柄谷行人氏の書いた「なぜ『共産主義者宣言』か」との解説付きで1993年10月に出版された太田出版・金塚貞文氏訳の『共産主義者宣言』でも、しっかりと確認できる。そして、最新訳の1998年新日本出版社出版の古典選書の服部文男訳『共産党宣言・共産主義の原理』にも、岩波文庫以来引き続く誤訳がある。

誤訳の系譜が、このように旧社会党や新左翼や共産党といった政治的立場の違いを超えて、今もなお連綿と続いていることに対して、私は全く驚かざるをえない。

私は、この新訳において、従来の翻訳が、全くと言って良いほど無視してきた不定冠詞と数詞、抽象名詞と具象名詞、訳語の明確化、的確な語義の確定をめざした。特に、マルクスが、ヘーゲル哲学の概念と全神経を使って、意図的にかき分けてきた類義語の訳し分けについては、私はできる限りの精力を費やしたことを報告しておく。

このため、私が今回明解な訳語に変更した部分を、基になるドイツ語原文を【】を用いて明示した後、旧来の翻訳書の訳語を参考として表示もした。また同じく【】を用いて、私は、各段落に論理的な小見出しを付け、マルクスの論理展開を、読者が明確に理解するための指針となるよう工夫を試みた。さらに、訳者注として[]の記号を用い、最低限の注解を付けた。なお1888年のサミュエル・ムーア訳の『宣言』英語版において明解になっている所を参考に、本文にも手を入れた箇所もあることを付け加えておきたい。

今後とも、我々と読者との共同作業で、この訳本を、一層厳密で分かりやすいものに仕上げていきたい。皆様のご意見・ご批判・ご質問を期待する。

以上

目次

前文	【今回『共産主義者達の宣言』出版する理由】	……………1
I	ブルジョアとプロレタリア【歴史と社会に関する見解】	……………5
	【ブルジョアジーの経済的形成と発展】	
	【ブルジョアジーの政治的形成と発展】	
	【その特徴—すべてを金銭関係に還元】	
	【—不断の革命指向】	
	【—世界市場指向】	
	【—都会・中央集権指向】	
	【ブルジョアジーの下での生産力の発展】	
	【プロレタリアートを現実に呼び出す】	
	【その特徴—市場の変動に脅かされる存在】	
	【—奴隷扱い等される存在】	
	【その増大と自然発生的闘いの開始】	
	【その自覚的闘いと政党の組織化】	
	【プロレタリアートと教養との融合】	
	【プロレタリアートのみが革命的階級】	
	【プロレタリアート革命の徹底性】	
	【プロレタリアート革命勝利の不可避性】	
II	プロレタリアと共産主義者【共産主義運動の目的】	……………15
	【共通の利益と運動全体の利益を代表】	
	【共産主義とは私的所有の揚棄】	
	【所有の社会性格が変わり階級性格を失う】	
	【賃労働者の所有の惨めな性格の揚棄】	
	【他人の労働を隷属する力を奪う】	
	【具体的非難への各論的反論】	
	【特に女性共同所有について一言】	
	【賃労働者の祖国についても一言】	
	【ある時代の支配思想は支配階級思想】	
	【第一歩はデモクラシーの闘いに勝つこと】	
	【具体的方針の一例】	
	【革命後はアソシエーション社会が出現】	
III	社会主義者と коммуニストの文献（略）	
IV	種々の反政府党に対する共産主義者の立場【反政府運動へ方針】	……………26
	【当面の目的と利益のため闘い未来も代表】	
	【階級対立についての意識の浸透を怠らず】	
	【所有問題が運動の根本問題】	

## 新訳『共産党宣言』

### 前 文

#### 【今回『共産主義者達の宣言』出版する理由】

妖怪【Ein Gespenst: 一つの妖怪】がヨーロッパに出没している — 共産主義の妖怪が。

[のっけからこの呆れた誤訳である。ここでは不定冠詞を数詞として訳している。極端に言えば、従来訳に頻出する「一つ」は、ほとんどがいないものなのである—直記・注]

全ての老いたヨーロッパの権力が、この妖怪狩りのために神聖同盟を結んだ。すなわち、ローマ法王とロシア皇帝とが、メッテルニヒとギゾーとが、フランス急進派とドイツ警察スパイとが。

およそ政権を握る政府から、共産主義的と罵倒されなかった野党が、どこにあるか？ およそ政府の反対党で、より進歩的な諸野党に対し、また反動的な敵に対して、共産主義の烙印を押した非難を投げ返さなかった野党がどこにあるか？

この事実から二つのことが導き出される。

共産主義は、ヨーロッパの権力者たち全てに、すでに権力【eine Macht: 一つの権力】であると認められていること。

[最初に書いたように、ここでも不定冠詞が数詞として翻訳されている—直記・注]

今こそ、共産主義者達が、全世界に向けて、自分達の見解・目的・方針【ihr Tendenzen: 傾向】を出版して、共産主義の妖怪に関するメルヘンに対し、自分達自身【der Partei selbst: 党自身】の宣言を対置する絶好の機会であること。

[方針と訳した訳語は、ドイツ語では、傾向である。岩波文庫ではそのように訳しているが、それで読者は意味がとれるであろうか。この個所は、内容としては、第IV章に対応しているので、意味の上から意識した。次のドイツ語の個所は、従来訳では、以下のように、各国から共産主義者達が集った事を、マルクスが律儀にも正確に書く必然性は全く出てこない。第IV章を見ても、賃労働者階級の諸党と別の党はつくらないとはっきり記述してある。また各国における共産主義者の活動方針を具体的に明らかにしているが、共産党の言葉は一切ないのである。私は強調するため徒党をつくらないと訳しておいた。したがってこの個所は党とは訳せない。しかし、呆れることに、せっかく書名を正確に訳して『共産主義者宣言』とした金塚訳も、この肝心要の部分で「党みずから」と従来通りの訳をつけている。「仏作って魂入れず」とはまさにこのことだ。ここは英語で言えば、文字どおりパーティなのである—直記・注]

この目的のため、様々な国籍の共産主義者達が、ロンドンに集まり、以下の宣言を起草した。これはイギリス・フランス・ドイツ・イタリア・フランドル及びデンマークの言語で発表されるのである。

[ここでの列挙の仕方は、参加した各国籍の共産主義者達の言語を、マルクスが律儀にも全て残らず明記したことを示しているのである—直記・注]

## I ブルジョアとプロレタリア

### 【歴史と社会に関する見解】

#### 【ブルジョアジーの経済的形成と発展】

これまで引き続く【bisherign: 訳語なし】全ての社会の歴史は、階級闘争の歴史である。

[従来訳で訳されていないドイツ語は、極めて重要な言葉であり、英語版では hitherto と訳されている。「(株) Q プレス」の「インターネット時代の日本語考察」—「日本語を考える」サイト <http://www.avis.ne.jp/~qpress00/langmenu.htm> で、『共産党宣言』の翻訳についての極めて優れた研究を五本も公開している新井暢氏は、この言葉は、「1845年現在の人類の到達した知識の限界では」という意味が込められているとする。だからこそ、この部分には、後年「成文化された歴史では」との限定と原始共同体に対する注解が付けられた必然性とこのことを永年に亘り考え続けていたエンゲルスの誠実さがあつた—直記・注]

自由民と奴隷、貴族と平民、領主と農奴・ギルドマスターと職人、要するに抑圧者と被抑圧者は、互に常に敵対して立ち、ある時は密かにまたある時は公然と、不断の戦闘を続けてきた。そしてこの戦闘は、全社会の革命的な再編成か、あるいは抗争する階級共々の破滅かで終わった。

歴史の草創の諸新紀元【Epochen: 時代】において、我々はほとんど至る所で、様々な身分への社会の複雑な配置、社会的階層の多岐にわたる順序を発見する。

[従来訳では、時間の経過が平坦に捉えられているが、歴史を推し進めるものは、エポック・メイキングなことなのである。したがって、従来訳では、以下の画時代的な指標を示す言葉とは、論理的に結びつかない—直記・注]

古代ローマにおいては、貴族・騎士・平民・奴隷を持つ。中世においては領主・家臣・ギルドマスター・熟練職人・徒弟・農奴を持つ。ほとんどの場合、これら諸階級の全てに特別な階層があつた。

封建社会の崩壊から芽を出した近代ブルジョア社会は、階級対立を揚棄【aufgehoben: 廃止】しなかった。それは、ただ新しい諸階級、抑圧の新しい諸条件、闘争の新しい諸形態を、古いものの代わりに確立しただけだった。

[従来訳では、マルクスが、ここでヘーゲル哲学の重要概念を使っているのを読者に認識させることできない。これでは読者に階級対立は単純に廃止できると誤解されてしまう。

アウフヘーベンとは、ヘーゲル哲学の実に重要な概念である。この言葉は、確かに

## 新訳『共産党宣言』

日常語でもあるが、ヘーゲルは、これに深い意味を見出して自分の哲学に取り込んだ。この言葉は、普通使われているように、「否定する」意味だけでなく、ヘーゲルはよくよく考えればさらに「保存する」意味もあることも指摘した。そして同時にこの二義を実行することを、アウフヘーベンと呼んだのである。このように、歴史的に成立した階級対立を揚棄するは、揚棄できるだけの歴史的現実的諸条件の存在が必要となるのである—直記・注]

我々の紀元【Epochen: 時代】、つまりブルジョアジーの紀元は、階級対立を単純化したことを特徴とする。社会は、全体として二つの大きい敵対的陣営、相互に直接対抗する二つの大きい階級—ブルジョアジーとプロレタリアート—に、ますます分裂しつつある。

中世の農奴から、最も初期の都市で、都市の城壁の外にある法律で定められた杭から内側に特別の許可を受けて居住するいわゆる城外市民が出現した。この「城外市民」からブルジョアジーの最初の諸要素が発展したのである。

[従来訳では、西洋史のある意味で核心を為すブルジョワジーの誕生に関するエポック・メイキングなことが、読者に明確な意識付けが為されないままに過ぎてしまう。「闘わざる者、市民にあらず」「都市の空気は人をして自由にする」「都市に来て自由になれ」等々のスローガン、以下に詳説されるこの画時代的な意味を読み取る事が重要だ—直記・注]

アメリカの発見、喜望峰の回航は、台頭するブルジョアジーに対して新鮮な大地を切り開いた。東インドそしてチャイナのマーケット、アメリカでの植民地建設、諸植民地との貿易、交換手段及びあらゆる商品の増加は、商業に、航海に、産業に、未曾有の飛躍を与え、そして、それと共に崩れつつある封建社会内部の革命的要素に急激な発展をもたらした。

これまでの封建的または閉鎖的なギルド的家内工業では、新しい市場とともに成長する欲求に対して、今や、間に合わなくなっていった。工場制手工業がそれにとって代わった。ギルド・マスターは、製造業に従事する中産階級によって押しのけられた。異なるギルドの間の分業は、個々の単一工場内の分業の前に消滅した。

しかし、市場は絶えず成長を続け、欲求は絶えず増大し続けた。工場制手工業ですら間に合わなくなっていった。そこで蒸気や機械が工業生産に革命をもたらした。近代的大工業がマニュファクチュアに取って代わった。工業的中産階級にかわって工業的百万長者が、全工業軍の指導者達が、近代ブルジョアが登場した。

大工業は、アメリカの発見が用意した世界市場を建設した。この世界市場は、計り知れない発展を、商業に、航海に、陸上交通にもたらした。この発達は、順序として、工業の拡大に作用し、そして工業・商業・航海・鉄道が伸びるのに正比例して、ブルジョアジーが発展し、彼らの資本を増大させ、ついには、中世から伝承された全ての階級を、後景へと押しやってしまったのである。

我々は、近代ブルジョアジー自体が、生産および交通様式【Verkehrsweise: 交換様式】における長い発展過程の一連の数々の変革の産物であることを見る。

[従来訳では、読者にはまるで商品の交換・流通関係を書いてあるだけかに狭く理解されてしまう。ここは人間の交通も含まれるほどのたいへん大きな概念なのである—直記・注]

### 【ブルジョアジーの政治的形成と発展】

ブルジョアジーのこれらの発展段階の各々には、それに一致する政治的な進歩を伴った。すなわち、封建貴族の支配の下では抑圧された階級、中世コミュンでは武装した自治連合。ある処では（イタリア及びドイツのように）独立した都市共和国。またある処では（フランスのように）君主国で課税対象とされた「第三身分」。ついで工場制手工業の時代に入ってから、制限君主制もしくは絶対君主制の下に、貴族階級の対抗勢力として奉仕しながら、事実上、一般的には大君主国の礎石として。こうしてブルジョアジーは、近代工業と国際市場の確立以来、近代的代議制国家において、ついに独占的な政治支配を、闘い取った。近代国家の行政府【Die moderne Staatsgewalt: 近代の国家権力】とは、全ブルジョアジーの共通事務を管理するための委員会にすぎないのである。

[従来訳でも誤まっではないが、前文との続きのが明確なムーア訳に従った—直記・注]

### 【その特徴—すべてを金銭関係に還元】

ブルジョアジーは、歴史上、最も革命的な役割を果たした。

ブルジョアジーは、それが優勢になったところでは何処でも、全ての封建制、家長制、牧歌的關係を終わらせた。「血縁の年長者」に結び付けていた緩なす封建的紐帯を、無慈悲に裁ち切り、人と人との間に、露骨な利害以外や冷淡な「金銭沙汰」以外のいかなる絆も残さなかった。彼らは、宗教的情熱や騎士道的熱狂や俗物的感傷などの聖なる恍惚すら、自己中心的な打算の氷水の洪水に退かされてしまった。彼らは、人格の尊厳を、交換価値で決定した。無数の破棄できない公認の自由の代わりに、たった一つの非良心的な自由—「自由貿易」を据えた。一言でいえば、宗教や政治の幻影で隠されていた搾取を、彼らは剥き出しで恥知らずな直接的かつ粗暴な搾取と置き換えたのである。

ブルジョアジーは、これまで敬意を払われ尊敬されてきたすべての職業から、その後光をはぎ取った。彼らは、医者・弁護士・聖職者・詩人・ひとかどの科学者を、自分たちのお雇いの賃労働者に変えてしまった。

ブルジョアジーは、家族からその感傷的なベールをひきはがし、家族関係を単なる金銭関係に還元してしまった。

ブルジョアジーは、反動たちがさかんに賛美する中世の蛮勇の発揮が、最も自堕落な安逸生活の内に、いかにちょうど格好な補完物を発見したかを暴露した。それは、人



## 新訳『共産党宣言』

間の活動が、何をもたらすことができるかを示す最初のものだった。それは、エジプトのピラミッドやローマの水路、そしてゴシック様式の大聖堂にもまさる大工事を完成した。それは、昔の民族および十字軍の集団的大移動を凌ぎ目立たないものにする大遠征を実行した。

### 【一不断の革命指向】

ブルジョアジーは、生産用具に、そしてそれによって生産関係に、そしてそれと共に社会の全関係に、絶えず革命を引き起こすことなくして存在しえない。これに反して、古い生産様式を変えずに維持することが、全てのそれ以前の産業諸階級の第一の生存条件であった。生産の不断の革命、あらゆる社会状態の絶え間ない混乱、永遠の不確実と興奮は、ブルジョアの紀元を他のすべての紀元と区別する。すべての固定され、早くに凍結された関係は、それら一連の古臭く神懸った観念や見解と共に、速やかに廃止され、新たに作られたすべての関係は、それらが慣習的な型となる前に古臭くさせられた。すべて形あるものは空に帰す、すべて神聖なものは冒瀆される、そして人はずいには素面の感覚で自らの生活の真の有様、また自らの家柄に関わる利害関係と無理にでも直面せざるをえない。

### 【一世界市場指向】

製品にとって絶えず拡大する市場の必要性は、ブルジョアジーを、地球の全表面に追い立てる。それは、至る所で身を寄せ合い、至る所で植民し、至る所で関係を確立していかなければならない。

ブルジョアジーは、世界市場の活用を通して、すべての国での生産と消費に世界的な性格を与えた。ブルジョアジーは、産業の足元から国民的な土台を取り払い復古主義者たちを大いに憤激させた。遠い昔からの国民的諸産業が破壊されたか、毎日破壊されつつある。それらは、新しい工業に押しつけられ、新しい工業の導入は、全ての文明化された国民にとって死活の問題になる。そしてそれらの工業が、もはや土着の原材料ではなく、はるか遠方の地域から取り寄せた原材料を加工し、その製品が本国で消費されるだけでなく、地球のすべての場所で消費される工業となる。自国の生産物で満足していた昔の欲望に代わって、我々は、遠く離れた国や気候の産物でなければ満たされない新しい欲望を発見する。昔の地方的民族的鎖国と自給自足の代わりに、我々は、全面的な交通と世界諸国民との普遍的な相互依存性を持つ。そして物質的生産におけると同じことが、精神的生産においても起こる。個々の国民の精神的産物が、世界に通用するもの【Gemeingut: 共同財産】となる。国民的偏見や狭量はますますあり得ないものとなり、そして多数の国民的および地方的文学から、世界文学が立ち上がる。

[従来訳では、たとえば音楽などの精神的生産物まで、まるで物質的なものであるかのようには訳されている。ここでは語義を明確にして正確な訳語とした一直記・注]



ブルジョアジーは、あらゆる生産諸用具の急速な改善により、広い範囲にわたって容易にされた伝達手段によって、すべての国民を、最も未開な民族さえ、文明の中に引き入れる。商品の安い価格は重砲隊である。それは、チャイナの全ての外壁をぶち壊し、異国人に対する未開人の強烈にして頑固な嫌悪に、降伏することを強要する。それは、全ての国民に、絶滅の痛みを口実にして、生産のブルジョア的様式の採用を強要する。それは、全ての国民に、彼らの間で文明と呼ぶものを持ち込むことを、つまり彼ら自身がブルジョアになることを強要する。一言で言えば、ブルジョアジーは、己のため、自分自身の姿に似せて世界を創造するのである。

### 【一都会・中央集権指向】

ブルジョアジーは、農村を都市の規則に服従させた。彼らは、巨大な都市を創り出し、農村人口に比べ、都市人口を際立って増加させ、住民のかなりの部分を田舎生活の無知蒙昧から救出した。彼らは農村を都市に従属させたと同じように、未開国や半未開諸国を文明諸国に、農耕諸民族をブルジョア諸民族に、東洋を西洋に従属させた。

ブルジョアジーは、生産諸手段・占有【des Besitzes: 所有】そして人口が分散した状態をますます揚棄【auf-gehoben: 廃止】続ける。彼らは人口を密集させ、生産手段を集中し、所有【das Eigentum: 財産】を少数の手に集中してしまった。この必然的結果は、政治の中央集権化であった。利益・法律・政府および関税を異にし、ほとんど連合していたに過ぎない独立した諸州が、今や国家、政府、法律、国民的な階級利害関係、税関線に圧縮されたのであった。

[従来訳では、占有と所有とにドイツ語でははっきりと書き分けがされていることを訳していない。ここでは、両概念とも抽象概念として、性格を表している。所有者がいないことを示す占有が、主を持つ所有に変わることを、ここでは揚棄と表現している—直記・注]

### 【ブルジョアジーの下での生産力の発展】

ブルジョアジーは、百年足らずの統治の間に、過去の世代の全てを合わせたよりも、もっと大量な・もっと大規模な生産力を作り出した。自然力の人間への従属、機械装置、農工業への化学の応用、汽船の航行、鉄道、電信、耕作・運河の開削もしくは河川のために手つかずの陸地を開拓すること、魔法で地表に呼び出した全人口—以前のどの世紀が、このような生産諸力が、社会的労働の幸運に恵まれて無為に過ごしていたとの予感を、せめて持ったであろうか？

こうして私たちは見た。ブルジョアジーを育ててきた土台である生産および交通手段は、封建社会の中で作られた。この生産および交通手段の発達のある段階に達した時、封建社会の中で生産し交通していた諸関係が、農業や工場制手工業の封建的体制が、一言で言えば、封建的所有諸関係は、既に発展した生産諸力ともはや両立しなくなった。それらは、それらは相応の足かせとなった。それらは爆破されなければならなかった。そして爆破されたのである。

## 新訳『共産党宣言』

その場所に自由競争が歩を進め、それと共にこれに適合した社会的および政治的機構によって、ブルジョアジーの経済的・政治的支配が付随したのである。

### 【プロレタリアートを現実に呼び出す】

私たちの目の前でも同じような運動は続いている。生産・交通・所有の諸関係を含め、生産および交通のこのような強力な手段を、魔法で呼び出した近代ブルジョア社会は、自分の魔法で呼びこんだ地下の威力を、もはや制御することができない魔法使いに似ている。過去数十年、商工業の歴史は、ひとえに近代的所有関係に対する、すなわちブルジョアの生存と彼らの支配の實在に関わる諸条件である所有諸関係に対する現代的生産諸力の反逆の歴史である。それは、商業危機に言及することで十分である。商業危機は、その周期的な繰り返しによって、全ブルジョワ社会の存在に審判を下し、その度ごとに脅迫を強める。これらの危機の際、現存する製品のみならず、以前に創造された生産諸力の大部分が、周期的に破壊される。これらの危機の最中、そこに流行病が発生する。以前の全ての時代には不条理に見えただろうが — 過剰生産の流行病である。社会は突然、瞬間的な未開状態に戻される。飢饉が、一般的な破壊戦が、社会からあらゆる生活手段を刈り取ってしまったように見える。工業も商業も壊滅してしまったように見える。何故そうなるのか？ 社会にあまりにも多くの文明、あまりにも多くの生活手段、あまりにも多くの工業、あまりにも多くの商業があるからである。自由な処分を社会に任せられる生産諸力は、もはやブルジョア的所有関係の発達を促進するのに役立つ。反対に、それら生産諸力は、所有関係に束縛されることによって、これらの関係にとって一層強力になる。それゆえ、生産諸力が、所有諸関係の束縛を圧倒するや否や、生産諸力は、ブルジョア社会の全体に混乱をもたらし、ブルジョア的所有の存在を危険にさらす。ブルジョアの諸関係は、生産諸力によって創造された富を抱えて行くには、あまりにも狭すぎるのである。では、いかにしてブルジョアジーは、これらの危機を乗り越えるか？ 一方では、大量の生産力を強制的に破壊する。他方では、新市場を侵略し、かつ古い市場を一層徹底的に収奪する。ではどうなるのか？ もっと全面的な、もっと強力な危機を準備すると共に危機を予防する手段を弱めていくのだ。

ブルジョアジーが、封建制度を打ち倒すのに用いた武器は、今やブルジョアジー自身に逆らって向けられているのである。

しかしブルジョアジーは、自分に死をもたらす武器を鍛えたばかりでない。彼らはその武器を使う人々をも現実に呼び出した—現代の賃労働者階級、プロレタリアートを。

### 【その特徴—市場の変動に脅かされる存在】

ブルジョアジーが、つまり資本が発達すると正比例して、近代的賃労働者階級プロレタリアートが発展する。彼らは、労働にありつける限りでのみ生きながらえ、同時に彼らの労働が資本を増大させる限りにおいてのみ、労働にありつける。自分を切り売りしなければならない—これら労働者たちは、すべての他の物品と同じ商品であり、したがってまた同じように競争のあらゆる浮沈みに、市場のあらゆる変動にさらされている。

プロレタリアの労働は、機械の拡張と分業とによって、すべての独立性を失い、それとともに労働者にとって一切の魅力を失った。労働者は機械の単なる付属物となり、最も単純で、最も単調な、最も容易に覚えられる操作だけが彼らから要求される。それゆえ労働者に係る費用は、ほとんどただ彼の生計と彼らの種族の繁殖のために必要とする最低限の生活手段に制限される。ところで商品の価格は、したがってまた労働の価格も、その生産費に等しい。それゆえ労働の嫌悪感が増大するにつれて、賃金は下落する。そのみか、機械と分業の増加するにつれて、それだけまた労働の分量も増加する—労働時間の増加によるか、ある与えられた時間内に要求される労働の増加、機械の運転のスピード化等々によるかして。

### 【一奴隷扱い等される存在】

近代工業は、家長制親方の小さな仕事場を、工業資本家の大工場に変えた。大工場に詰め込まれた労働大衆は、軍隊的に組織される。彼らは産業軍の兵卒として、下士官や士官の完全な職階制の指揮の下に置かれる。彼らは、ブルジョア階級の、ブルジョア国家の奴隷であるばかりか、彼らは毎日毎時、機械により、監督者により、とりわけ個々のブルジョア工場主自身の下で奴隷扱いされている。公然とこの専制が、利得がその目的であると賛美すればするほど、それは、ますますケチな、ますます忌々しく、ますます苦々しいものになる。

手を使う労働から熟練と努力の発揮がますます重要でなくなればなくなるほど、つまり近代工業が発展すればするほど、ますます多くなるのは、男性の労働が女性や子どもの労働によって取って代わられることである。性や年齢の差別は、もはや賃労働者階級にとっては、社会的な意義がない。そこにはただ年齢や性によって経費の違う労働の用具があるだけなのである。

工場主による労働者の搾取が、その労賃を現金で受け取ることで終わるや否や、直ちに賃労働者は、ブルジョアジーの別な部分によって、家主、店主、質屋等をけしかけられる。

中産階級のより低い層、一小売店主、商人および一般に退職した熟練工、職人および小農、—これらすべての階級はプロレタリアートに落ちぶれていく。それは、彼らの小資本が近代工業の経持ち込んだスケールには十分でなく、大資本家との競争で手も足も出なくさせられるからであり、ある場合には、彼らの専門の技術が、新しい生産様式によって無価値にされるからである。こうしてプロレタリアートは、住民のあらゆる階層から補充されていく。

### 【その増大と自然発生的闘いの開始】

プロレタリアートは、様々な発展段階を通過する。ブルジョアジーに対する彼らの闘争は彼らの存在と共に始まるのである。

最初是个々の労働者たちが、次に工場内の労働者たちが、次に地区におけるある労働部門の労働者たちが、彼らを直接搾取する個々のブルジョアに対して闘う。彼らは、

## 新訳『共産党宣言』

その攻撃を、生産のブルジョア的条件に反対してではなく、生産の諸用具そのものに向ける。すなわち、彼らは、彼らの労働と競争する輸入品を破壊し、機械をこなごなに打ち壊し、工場を怒りで真っ赤に燃え立たせる。彼らは中世の職人の消滅した地位を力づくで取り戻そうと努める。

この段階では、労働者たちはまだ全国に散在して、かれら相互の競争によってばらばら分裂している烏合の衆である。たまたま彼らの大規模の結集【Zusammenhalten: 合同】は、彼ら自身の団結【Vereinigung: 合同】の結果ではなく、ブルジョアジーの団結【Vereinigung: 合同】の結果である。それは、ブルジョアジーが彼ら自身の政治目的を達成するために、全プロレタリアートを動かす必要があるからであり、そしてしばらくはまだそれができるからである。したがってこの段階では、プロレタリアートは、自分たちの敵とは戦わず、彼らの敵の敵と、すなわち専制君主制の残りかすや地主や非工業的ブルジョアそして小市民らと戦う。こうして、全歴史的運動は、ブルジョアジーの手に集中され、そうして獲得された全ての勝利は、ブルジョアジーの勝利となるのである。

[従来訳では、マルクスの書き分けたドイツ語が明確に訳し分けられていない—直記・注]

## 【その自覚的闘いと政党の組織化】

しかし、工業の発達とともに、プロレタリアートが増加するばかりではない。それは、更に大きい集団に集結されるようになり、その力は成長し、そして彼らはその力を自覚するようになる。機械がすべての労働の区別を消し去り、ほとんど到るところで賃金を同じ低いレベルに引き下げるから、プロレタリアートの内部における利益と生活状態もますます平準化される。ブルジョア同士の競争の激化とその結果生じる商業危機とは、労働者の賃金をますます動揺させる。これまで以上に急速に発展する絶え間ない機械の改良は、労働者の全社会的地位をますます不安定にする。個々の労働者と個々のブルジョアとの間の衝突は、ますます二つの階級間の衝突という性格を帯びてくる。労働者たちは、ブルジョアに対して団結【Vereinigung: 結集】し始める。彼らは彼らの賃金水準を維持するために結束【zusammen: 集会】する。彼らの不時の抗争のための用意に、永続的なアソシエーション【dauernde Assoziationen: 継続する組合・結社】までも作る。ところにより闘争は暴動となって爆発する。

[従来訳では、ここに始めて出てくるアソシエーションは、組合または結社と訳されている。本来ドイツ語ではなく、フランス語として誕生したこの言葉は、賃労働者が組織した組織の自主的なかつ連合的な性格を持つ組織を総称している広い概念である—直記・注]

たまには労働者たちは勝つこともあるが、それは一時の勝ちにすぎない。彼らの闘争の本来の成果は直接的な勝利ではなく、ますます拡大する労働者の団結【Vereinigung: 団結】である。これを推し進めるものは、大工業によって作り出される交通機関の発達であって、これが地域を異にする労働者を互いに結びつける。こうした結合【Verbindung: 連絡】が出来さえすれば、何処でも性格が同じなあまたの地方的な闘争を、国民闘争

に、階級闘争にまとめることが出来る。とはいえ、階級闘争はすべて政治闘争である。こうして、中世の自治都市の住民が、不便な道路のために、数世紀を要した団結【die Vereinigung: 団結】を、近代プロレタリアは鉄道のおかげで、わずかの年月で成し遂げたのである。

このプロレタリアの階級への組織化、したがって政党【politischen Partei: 政党】への組織化は、その都度労働者自身の間での縄張り争いで壊される。しかしそれは、いつもまた立ち直って、一層強く、一層堅く、一層大きくなる。そしてブルジョアジーの間の分裂を利用して、労働者の個々の利益を法律の形で承認させることに成功する。イギリスにおける十時間労働法は、こうしてできたのである。

[従来訳でも良い箇所ではあるが、参考のためにドイツ語を明記しておいた一直記・注]  
【プロレタリアートと教養との融合】

旧社会の衝突は、様々な仕方で、プロレタリアートの発展の歩調を早める。ブルジョアジーは、絶えず続く闘いに巻き込まれている。最初は貴族階級に対して、その後には、ブルジョアジー自身の中でのその利害が工業の進歩に対し敵対的になった部分に対して、そして常にすべての外国のブルジョアジーに対して。これらのすべての闘いにおいて、ブルジョアジーは、プロレタリアートに訴えて、援助を乞い、こうして彼らを政治闘争の中に引きずり込むことを余儀なくさせられる。こうして、ブルジョアジー自身が、自分自身の教養の要素を、つまりは自分自身へ向けられる武器をプロレタリアートに供給する。

さらに、我々が見たように、工業の進歩によって支配階級のあらゆる構成分子が、プロレタリアートの中へ投げ込まれる。あるいは少なくともその生活条件をおびやかされる。彼らもまた、プロレタリアートに大量の教養の要素を供給する。

最後に、階級闘争が決戦期に近づくと、支配階級の内部・旧社会全体の内部における分解作用が、特に激しく鋭い性格を帯びてきて、支配階級の小部分がそこから抜け出して、革命的な階級に、すなわち未来をその手に握っている階級に結びつく。それゆえ、かつて貴族の一部がブルジョアジーに転身したように、今やブルジョアジーの一部が、とりわけ全歴史運動の理論的理解に努力し到達したブルジョア・イデオロギーの一部が、プロレタリアートに転身する。

### 【プロレタリアートのみが革命的階級】

今日ブルジョアジーに対立する全ての階級の中で、プロレタリアートのみが、真に革命的な階級である。その他の階級は、大工業と共に衰微し没落する。プロレタリアートは、大工業の随一の特産物である。

中産階級、すなわち小さい工場主、店主、職人、農民、彼ら全ては、中産階級としての彼らの存在を没落から守るために、ブルジョアジーと闘う。彼らはそれゆえ革命的ではなく保守的である。それのみか、むしろ反動的であって、彼らは歴史の歯車を逆転させようと努める。たまたま彼らが革命的である時は、彼らが彼らの身に迫るプロレタリアートへの転落を望み見るからであって、その時彼らも彼らの現在の利益を捨てて、将来の利益を守り、彼ら自身の立場を去ってプロレタリアートの立場に立つ。



## 新訳『共産党宣言』

ルンペンプロレタリアート、旧社会の最下層の・この無気力な腐れものは、プロレタリアートの革命によって、あちこちで運動の中へ放り込まれるが、彼らの境遇全体から見れば、彼らはむしろ好んで反動派の陰謀に買収される連中だろう。

### 【プロレタリアート革命の徹底性】

旧社会の生活条件は、プロレタリアートの生活条件の中には既になくなっていく。プロレタリアは、無所有である【eigentnmslos: 何らの財産も持っていない】。

[従来訳では、具象概念であるかに訳している。一切の財産を持たないプロレタリアなどどこにいるのか。ここは抽象概念で、プロレタリアの所有の性格を表している—直記・注]

彼と妻子との関係は、もはや何一つブルジョアの家族関係と共通な点がない。近代的工業労働、資本による近代的圧政は、イギリスでもフランスでもアメリカでもドイツでも同じであって、プロレタリアートからすべての民族的性格を剥ぎ取った。法律も道徳も宗教も、プロレタリアートにとっては、ひとしくブルジョアの独善であって、それらの背後には、また等しくブルジョアジーの利益が隠されているのである。

支配権を勝ち取った今までの全ての階級は、全社会を彼らの利得の諸条件に従わせ、それによって彼らの既に得た社会的地位を守ろうと努めた。プロレタリアは、彼ら自身のこれまでの取得様式を、そして同時にこれまでの全ての取得様式を廃止してこそ、社会的生産力を勝ち取ることが出来るのである。プロレタリアートは、守るべき自分のものを何一つ持たない。プロレタリアートは、これまでの全ての私的保護や私的保証を破棄しなければならない。

これまでの全ての歴史的な運動は、少数のあるいは少数者の利益のための運動であった。プロレタリアの運動は、夥しい多数の利益のための夥しい多数の自主的な運動である。現社会の最下層であるプロレタリアートは、公的社会を構成する諸層、その上部構造全体を吹き飛ばすことなくしては、起き上がることも、立ち上がることもできないのである。

内容はどうあれ、形式の上では、今なおブルジョアジーに対するプロレタリアートの闘争は、最初は国民的闘争である。どの国のプロレタリアートは、もちろん、まず自国のブルジョアジーを倒さなければならない。

### 【プロレタリアート革命勝利の不可避性】

我々は、プロレタリアートの発展の最も普遍的な諸段階を素描しながら、現存社会の内部に多かれ少なかれ潜在する内乱を追求し、ついにそれが公然たる革命となって爆発し、そしてブルジョアジーを暴力的に打ち倒して、プロレタリアートがその支配を確立するところまで説いた。

これまでの引き続き全ての社会は、既に見たように、抑圧する階級と抑圧される階級との対立に成り立っていた。しかしある階級を抑圧することができるためには、その階級の



ために、少なくともその奴隷的存在を続けることができるだけの条件を保証してやらなければならない。農奴は農奴制の中で、コミュニンの成員に出世したし、小ブルジョアも封建的絶対主義のくびきの下でブルジョアに出世した。これに反して近代労働者は、工業の進歩と共に向上するどころか、ますます深く彼ら自身の階級の生存条件以下に沈んでゆく。労働者は貧民になる。そして窮乏は人口や富よりもっと速やかに発展する。ここで明らかとなることは、ブルジョアジーは、この先長く社会の支配階級を続けて行き、そして彼らの階級の生活条件を規制法則として社会に押し付ける力のないことが明白である。ブルジョワジーは支配する能力がない。なぜならば、彼らは彼らの奴隷に、その奴隷制の内部ですら、その生存を保証してやれないからであり、そして彼らが、奴隷を養ってやらねばならぬような地位に、奴隷を突き落とすことを、余儀なくされているからである。社会は、もはやブルジョアジーの下では生存することは出来ない。すなわち、ブルジョアジーの生存は、もはや社会と相容れないのである。

ブルジョアジーの存在とその支配のための主要な条件は、私人の手に富を集積すること、つまり資本の形成と増殖である。資本の条件は、賃労働である。賃労働は、もっぱら労働者同士の競争の上に成り立つ。工業の進歩は — これの無意志な、そして無抵抗な担い手がブルジョアジーであるが — 競争による労働者たちの孤立を、アソシエーション【Assoziation: 結合・結社】を介した【durch: による】革命的な団結【Vereinigung: 団結】に置き換える。それゆえ大工業の発展と共にブルジョアジーの足元から、彼らがその上で生産しかつ生産物を取得してきた体制の土台そのものが取り払われる。ブルジョアジーは、何よりも彼ら自身の墓掘り人を生産する。ブルジョアジーの没落とプロレタリアートの勝利は、共に避けられないのである。

[従来訳はまたしてもアソシエーションを読者に分かるようには訳していない—直記・注]

## II プロレタリアと共産主義者

### 【共産主義運動の目的】

#### 【共通の利益と運動全体の利益を代表】

どのような関係において、共産主義者は、全体としてプロレタリアートを支持するか？

共産主義者は他の賃労働者階級諸党に対抗して特殊な徒党【Partien: 党】を形成しない。

共産主義者は、全プロレタリアートの利益から離れた利益を持たない。

共産主義者は、特殊な原理を立てて、プロレタリア運動をその型に嵌めようとはしない。

共産主義者は、ただ次の点で、他のプロレタリア諸党と区別される。すなわち、彼は、一方では、プロレタリアの各種の国民闘争において、全プロレタリアートの、その国籍とは関係のない共通の利益を掲げて、それを貫徹し、他方では、プロレタリアートとブルジョアジーとの闘争が通過する各種の発展段階において、常に運動全体の利益を代表する。

## 新訳『共産党宣言』

それゆえ共産主義者は、実践的には、あらゆる国々の賃労働者階級諸党に所属する最も断固とした、つねに推進的な部分【Partien: 党】であり、理論的には、プロレタリア運動の条件や進歩や一般的な結果に関して、他のプロレタリア階級の他のどんな集団にもまさって、明瞭な見通しを持っている。

[これらの部分を読めば、過去の世界の共産党のセクト主義は、全く擁護できない。そもそも始めの部分で指摘したが「共産党宣言」という訳語自体も誤訳だった。そして、ここでも、従来訳は、「共産主義者は他の賃労働者階級諸党に対抗して特殊な徒党を形成しない」と明記される中では、単に部分という意味しかないパルタイを、「労働者諸党のうちでもっとも果敢な・つねに推進的な党であり」と誤訳し恥じないのである—直記・注解]

### 【共産主義とは私的所有の揚棄】

共産主義者の当面の目的は、他の全てのプロレタリア諸党のそれと同じである。すなわち、プロレタリアートを階級に形成すること、ブルジョアの支配を打倒すること、プロレタリアートによって政治権力を奪い取ること。

共産主義者の理論的命題は、決してあれやこれやの世界改良論者どもの発明したり発見したりした思想とか原理とかに拠るのではない。

それは、現存する階級闘争の、すなわち我々の眼前で進行する歴史の動きの、実際の諸関係を普遍的に表現したに過ぎない。これまでの所有関係【Eigentumsverhaeltnisse: 所有諸関係】を廃止【Abshaffung: 廃止】するというのも、何も格別共産主義の特徴ではない。

全ての所有諸関係は、絶え間ない歴史的推移を、絶え間ない歴史的変化に受けてきた。

例えばフランス革命は、ブルジョア的所有に味方して、封建的所有を廃止【ab-shaffung: 廃止】した。

共産主義を特徴づけるものは、所有一般【des Eigentums ueberhaupt: 所有一般】の廃止【Abshaffung: 廃止】ではなく、ブルジョア的所有の廃止【Abshaffung: 廃止】である。

ところで、近代ブルジョア的私的所有【das moderne buergerliche Privateigentum: 近代ブルジョア的私有財産】は、階級対立に基づく、すなわち人による人の搾取に基づく生産物の生産と取得の最後の最も完成した表現である。

この意味において、共産主義者は、その理論を、「私的所有の揚棄」【Aufhebung des Privateigentum: 私有財産の廃止】という一語に纏めることが出来るのである。

[従来訳では、この部分は、ほとんどが私有財産の廃止・私的所有の廃止とされてきた。

ここで衝撃的な事実を書いておく。実際の所、確信的な「私的所有の廃止」【Abshaffung des Privateigentum】論者は、エンゲルスであった。このことは『共産主義の原理』の間15と間16等を確認すれば明らかなだ。したがって、マルクスがここで、その理論を、「私的所有の揚棄」【Aufhebung des Privateigentum: 私有財産の廃止】という一語に纏

めることが出来ると強調したのは、実にエンゲルス批判だというのが、私の他には誰も言っていないが直記説である。だから、このことに打ちのめされたエンゲルスはこれ以降、マルクスが死ぬまで、「第二バイオリン」を弾き続けることに自己を限定していたのである。

また先に注解したように、アウフヘーベンとは、ヘーゲル哲学の実に重要な概念である。この言葉は、確かに日常語でもあるが、ヘーゲルはこれに深い意味を見出して、自分の哲学に取り込んだ。この言葉は、普通使われるように「否定する」意味だけでなく、ヘーゲルはよくよく考えればさらに「保存する」意味もあることも指摘し、そして、同時にこの二義を実行することを、アウフヘーベンと呼んだ。これこそヘーゲル哲学の華である。

これ以下の本文で、マルクスは、揚棄と廃止とを明確に使い分け、掛け合い漫才のように、実に見事に絡ませて議論を展開している。こうした展開をさせているのも、ヘーゲル哲学の革命性を知るマルクスは、ブルジョアやエンゲルスが、揚棄と廃止の概念を混乱して使い全く同一視している一面的な認識を、実際に嘲笑して見せたのである。だが現在入手できる出版物の形式で、この二語の明確な訳分けをしてあるものやなぜこうした展開となっているかの説得的な解説をつけているものを、私はいまだかつて見たことがない。

ついで言えば、中核派の出版した『共産党宣言』や『ドイツ・イデオロギー』の翻訳者の一人のM氏が『共産党宣言』学習会のチューターとして横須賀市に来た時、この行を論議したが、彼は訳分けしなくても良いと言い放ったので私は実に驚かされた—直記・注]

## 【所有の社会的性格が変わり階級的性格を失う】

人は我々共産主義者を非難する。「自分で稼いだ、自分で働いて得た所有を、すなわちあらゆる人格的な自由と活動と独立の基礎を為す所有【Eigentum: 私有財産】を廃止【abshaffen: 廃止】する」と。

[従来訳は、全て所有の性格に関する抽象的な性格概念を具象概念として訳してきた。これでは、読者にとって、これ以降の展開がわかりにくいのは必然性を持つし、所有の社会的性格が変わり階級性格を失うという記述は全く認識できなくなってしまう—直記・注]

働いて、稼いで、自分で儲けた所有【Eigentum: 私有財産】だって！ 諸君は、ブルジョア的所有より以前にあった小市民的な小農民的な所有【Eigentum: 私有財産】のことを言っているのか？ それなら我々が廃止【abzushaffen: 廃止】するまでもない。工業の発展がそれを廃止【abgeschafft: 廃止】したし、また日々に廃止【ab-shafft: 廃止】しつつある。

それとも諸君は、近代ブルジョア的私的所有【Ihr vom moderne buergerlichen Privateigentum: 近代ブルジョア的私有財産】のことを言っているのか？

では、賃労働は、プロレタリアの労働が、プロレタリアの為に所有【Eigentum: 私有財産】を創るか？ とんでもない。それは資本を、すなわち、賃労働を搾取することを本来の

## 新訳『共産党宣言』

性質とする所有【Eigentum: 私有財産】を創る。それは、新しい賃労働を生産して再びそれを搾取するという条件の下でのみ、増えて行く所有【Eigentum: 私有財産】である。その現在の形態における所有【Eigentum: 私有財産】は、資本と賃労働の対立の中を動いている。我々はこの対立の両面を観察してみよう。

資本家であることは、単にある人格であるのみならず、生産面において社会的位置を占めることである。資本は、社会的なもの【ein gemeinschaftliches: 共同の産物】であって、それはもっぱら社会の多数の成員の共同の活動によって、いやせんじつめれば、社会全員の共同の活動によって運転されているのである。

それゆえ資本は人格的【keine persoenliche: 個人】な力ではない。それは社会の力【eine gesellschaftliche Macht: 社会の力】である。

それゆえ資本が社会の全成員の所有【Eigentum: 財産】に変換されるとしても、それは人格的所有【persoenliches Eigentum: 個人の財産】が社会的所有に変質されるのではない。ただ所有【Eigentum: 財産】の社会的性格が変更されるだけである。それは階級的性格を失うのである。

[従来訳ではこの個所は読者にとってほとんど分からないものであろう。なぜなら我々は、あるものが、ある社会的関係の中で持っている意味や価値がその時々との社会的関係と関わりなくそのものが本来的に持っている属性だと錯覚していることを忘れてからである。マルクスは、この認識の核心をいわゆる形態規定〔正確には形式規定と訳すべき―直記・注〕で解明したのだ。したがって、社会的関係が変換されれば、所有の形式が変質して所有の性格が変更するのである。こうして私的所有は揚棄され、所有の社会的性格は、個々人的所有へと変更されて、その階級的性格を失うのである。

その他に極めて大切な事ながら全く無視され続けてきたことを明らかにする。それはまたまたエンゲルスに関することである。この行もエンゲルス批判なのである。

この「所有の社会的性格が変更されて階級的性格を失う」との一言は、実にエンゲルス批判でもあるというのが、私・直記説である。

『共産主義者達の宣言』を書く時にマルクスが利用したエンゲルスの『共産主義の原理』の「問14」には、私的所有の廃止の後には、「全ての生産用具の共同の利用および共同の合意による全生産物の分配、いわゆる財貨共有制が現れるであろう。しかも、私的所有の廃止は、産業の発展から必然的に生ずる社会秩序全体の改造の、最も簡潔でもっとも特徴的な総括であり、またそれゆえに、当然のことながら共産主義者によって主要な要求として強調される」とまで、明確に「財貨共有制が現れる」と記述しているのである。

だから、「資本が社会の全成員の所有に変換されるとしても、それは人格的所有が社会的所有に変質するのではない。ただ所有の社会的性格が変更されるだけである。それは階級的性格を失うのである」とのマルクスの記述は、形式変質・性格変更が起きるだけだとする。つまり形式規定の核心が認識できていないとの批判である。一度ならず二度までのこの根本的な批判。このことに打ちのめされたエンゲルスはこれ以降、マルクスが死ぬまで、「第二バイオリン」を弾き続けることに自己を限定していたのである―直記彬・注解]

## 【賃労働者の所有の惨めな性格の揚棄】

次に賃労働を見よう。

賃労働の平均価格は、労賃の最小限度である。すなわち、労働者を労働者として生かしておくのに必要な生活手段の総和である。したがって、賃労働者がその活動によって得られるものは、彼のぎりぎりの生活を再生産するに足るだけである。我々は、直接的生活の再生産に要する労働生産物のこの人格的な所得を廃止【abshaffen: 廃止】するつもりではない。それは、他人の労働を支配する力となるような余分な純益を生じない所得である。我々は、ただ賃労働者が資本を増やすためにしか生きられないような、そしてただ支配階級の利益が要求する間しか生きられないようなこの所得の惨めな性格を、揚棄【Aufheben: 除こう】しようと考えているだけなのである。

ブルジョア社会は、生きている労働は、蓄積された労働を増やすための手段にすぎない。共産主義社会では、蓄積された労働は、労働者の生活過程を拡大し、豊かにし、向上するための手段に他ならない。

それゆえブルジョア社会では、過去が現在を支配し、共産主義社会においては、現在が過去を支配する。ブルジョア社会では、資本は独立と人格とがありながら、働く個人【Individum: 個人】には人格も独立もないのである。

しかるに、こうした状態を揚棄【Aufhebung: 廃止】するのを、ブルジョアは、人格と自由の揚棄【Aufhebung: 廃止】と叫ぶ！ そう、その通り。いかにも、ブルジョア的人格、ブルジョアの独立とブルジョアの自由を揚棄【Aufhebung: 廃止】することが、我々の狙いなのである。

自由とは、現在のブルジョアの生産諸条件のもとでは、自由な商業、自由な売買を意味する。

だが、商売がなくなれば、自由な商売もなくなる。そもそも自由な商売などという言い草は、ブルジョア諸君の他の一切の自由に関する馱法螺と同様に、総じて中世の束縛されていた商売、奴隷扱いされていた町人に対してこそ意味があるのであって、共産主義者の唱える商売の、ブルジョアの生産関係の、そしてブルジョアそれ自身の揚棄【Aufhebung: 廃止】ということに対しては意味がない。

## 【他人の労働を隷属する力を奪う】

諸君は、我々が私的所有を揚棄【des Privateigentum aufhebung: 私有財産を廃止】するということで、びっくりする。しかし諸君の現在の社会では、私的所有【des Privateigentum: 私有財産】は、全住民の十分の九にとっては既に揚棄【aufgehoben: 廃止】されている。十分の九にないからこそそれがあるのだ。つまり諸君は、社会の夥しい多数の無所有を必要条件として前提にしている所有を、我々が揚棄しようとしているとを非難しているのである。

[1888年のサミュエル・ムーア訳の『宣言』英語版では、この部分は、以下のように翻訳され、極めて分かりやすく明解になっているので、参考のためここに紹介する。



## 新訳『共産党宣言』

You are horrified at our intending to do away with private property. But in your existing society, private property is already done away with for nine-tenths of the population; its existence for the few is solely due to its non-existence in the hands of those nine-tenths. You reproach us, therefore, with intending to do away with a form of property, the necessary condition for whose existence is the non-existence of any property for the immense majority of society.

【訳】 諸君は、私的所有の揚棄という我々の意図をこわがっている。しかし諸君の現在の社会において、私的所有は、全住民の9/10にとっては既に揚棄されている。少数者に集中する所有の存在は、唯一つ9/10の手における所有の非存在に依存している。諸君が我々を責める所以は、所有の形式を揚棄しようとしていることをもってであるが、その形式が存在するための必要条件は、社会の計り知れない大多数者におけるあらゆる所有の非存在ということなのだ。

この訳文は、先に紹介した新井暢氏のものを、私が注解を付けてきた観点から、新井氏が財産とした訳を、所有等に変えて若干手直したものである。

新井暢氏自身は、この核心を、「所有」をではなく「所有の形式； a form of property」の揚棄と見る。そして、新井氏は、「所有を揚棄する」のと「所有の形式を揚棄する」のとではどう違うかは、内容と形式の論理学の初歩だと説明する。私の説明とは異なるが、優れた解釈である。

この部分を後日マルクスは、「資本主義時代の成果—すなわち協業と土地の共通占有 [Gemeinbesitz 一直記・注] ならびに労働そのものによって生産された生産手段の共通占有 [Gemeinbesitz 一直記・注] —を基礎とする個々人的所有 [individuelles Eigentum 一直記・注] を再建する」(『資本論第一巻第二十四章』) と実に明確に表現したのである。

マルクスは、資本家が、資本は自分の所有であると宣言したことに対して、資本家が所有するとの実態は、資本家は既に実質的に生産過程の上では、全く外的な存在になっており、経営者が占有し賃労働者とその占有を補助する関係にあること、つまり資本家が必要でなくなっているとの冷徹な現実を、誰よりもはっきり厳然と突きつけたのである。

したがって、未来のいわゆる資本のあり方は、より具体的にいうならば、この体制を改革し、日常的に管理・運転・補修に関わっている賃労働者達の日常管理下におくことが、歴史的な必然性を持つことになる。この厳然たる事実から、資本家的生産関係は、その終焉の時を迎え、協働労働と生産手段の共通占有に基づく社会関係が生まれる—  
一直記・注]

要するに、諸君は、我々が諸君の所有を揚棄【Aufheben: 廃止】するというので、我々を非難している。いかにも私たちはそれを揚棄【Aufheben: 廃止】するのである。

労働が、もはや資本や貨幣又は地代に、つまり独占的な社会力に変換されなくなる瞬間から、言い換えれば、人格的所有がブルジョア的所有に転化しなくなる瞬間から、



正にその瞬間から、「人格が揚棄【aufgehoben: 廃止】される」と諸君は言う。

つまり諸君の理解する「人格」とは、ブルジョア以外の、つまりブルジョア資産家以外の何ものでもないことを諸君は告白している。そんな人格など、もとより揚棄【aufgehoben: 廃止】されるべきものである。

共産主義は、何人からも、社会から生み出される生産物を取得する力を奪うものではない。共産主義は、ただこの取得を利用して他人の労働を自分に隷属させる力を奪うのである。

[そして打ち立てられる新しい社会関係の下では、社会的労働の交換が、協働と生産手段の共通占有に基づいて行われる。このように社会的関係が変換されれば、所有の形式が変質して、所有の性格が変更するのである。こうして私的所有は揚棄され、所有の社会的性格は、個々人的所有へと変更されて、その階級的性格を失うのである。

再度強調しておけば、アソシエーション社会では、生産物に対する私的所有性格が変質し、生産物の取得形式が、他人の労働を隷属させる力を奪った所有として社会的性格が変質して、所有の階級的性格を失った個々人的所有が再建される。そこは、一人ひとりの自由な発展が、全ての人々の自由な発展の条件となる協働社会なのである—直記・注]

### 【具体的非難への各論的反論】

「私的所有を揚棄したら最後、全ての労働が止み、あまねく怠惰がはびこるだろう」と抗議する者がある。

そうだとすると、ブルジョア社会は怠惰のためにとうの昔に滅んでいたに違いない。というのは、ブルジョア社会では、働く者は儲からず、儲かる者は働かないからである。所詮、これらの繰り返いは、資本がなくなれば賃労働もなくなるとの同語反復と同じ表現にすぎない。

物質的生産物の共産主義的な取得方法と生産方法とに向けられている一切の攻撃は、同じく精神的生産物の取得と生産の上へも及んでいる。ブルジョアにとっては、階級的所有の揚棄【Aufheben: 廃止】は、生産そのものの揚棄【Aufheben: 廃止】であると同様に、彼らにとっては、階級的教養の揚棄【Aufheben: 廃止】は教養一般の揚棄【Aufheben: 廃止】と同じなのである。

ブルジョアが失うことを憂えている教養とは、莫大な多数者にとっては、機械になる訓練なのである。

しかし諸君が、自由・教育・権利等々に関する君らブルジョア的観念をもって、ブルジョア的所有の廃止を論ずる限り、我々と言いつ争うのは無用である。諸君の思想そのものが、ブルジョア的生産関係と所有関係の産物なのであるから。ちょうど諸君の権利が、法律に高められた諸君の階級の意志にすぎないように、そしてその意志内容は、諸君の階級の物質的生活条件の内に与えられていたように。

諸君の生産関係や所有関係は、生産の進歩と共に滅び去る歴史的関係であるのに、それを永遠の自然法や理性法に変更しようとの諸君の虫の良い考え方は、既に滅亡し

## 新訳『共産党宣言』

た全ての支配階級と同様の考え方である。古代の所有には認められていることを、封建的所有にも認められていることを、諸君はブルジョア的所有形態となると、認めることは出来ないのである。

家族の揚棄【Aufhebung: 廃止】！もっとも急進的な人々でさえ、共産主義者の悪名高い提案に憤慨する。

現在の家族、ブルジョアの家族は、何に基礎を置いているか？ 資本に、私的利益にである。完全に発達した姿では、それはブルジョアジーだけにしか存在しない。しかしそのためには、家庭を持たないプロレタリアと公娼制度とがあつて、それを補完している。

ブルジョアの家族は、その補完物が消滅するとき、当然の事として消滅し、そしてこの二つも資本の消滅と共に消滅するのである。

諸君は、我々が親による子供の搾取を揚棄【auf-hebung: 廃止】するというので、我々を非難するか？ 我々は、自らこの罪を認める。

「しかし」、と諸君は言う、「家庭教育を止めて社会教育に置き換えるのは、我々の最も親密な関係を揚棄【auf-hebung: 廃止】するものだ」と。

ところが、そういう諸君の教育も、社会によって規定されているのではないか？ 諸君がその中で教育する社会的諸関係によって、学校その他を介して、直接または間接の社会の干渉によって？ 教育に対する社会の干渉は、共産主義者が発明したのではない。共産主義者は、ただその干渉の性格を変えるだけであり、教育を支配階級の影響から解放することだけである。

家族や教育について、親子の親密な関係についてのブルジョアの言い草は、大工業によって、プロレタリアから全ての家族の絆がばらばらに断ち切れ、彼らの子供たちが単なる商品や労働用具に変えられるに及んで、ますます吐き気を催させるものとなる。

### 【特に女性共同所有について一言】

「しかし君ら共産主義者は、女性の共同所有を目論んでいる」と全ブルジョアジーは、我々に向かって、一斉に吠え立てる。

ブルジョアは、自分らの妻を単なる生産用具と見ている。だから、生産用具が共同で使われるようになると聞いて、その共同使用の運命が、同じく女性たちにも及ぶとしか考えられないのは当然の成り行きである。

彼らには、生産用具にすぎない女性の地位を揚棄【aufzuheben: 廃止】することこそ、我々の主眼であるなどということは、想像することすらできないのである。

それはともかくとして、共産主義者の女性の共同所有【Weibergemeinschaft: 女性共有】についての我がブルジョア諸君の道学者ぶった驚きぶりほど、滑稽なものは何もない。女性の共同所有【Weibergemeinschaft: 女性共有】は、共産主義者が実施するに当たらない。それはこれまで、ほとんど常に実在していたのである。

[従来訳は正確な訳語ではなく、あいまいである一直記・注]

我がブルジョア諸君は、公娼については言わずもがな、プロレタリアの妻や娘を自分の自由にするだけでは飽き足らず、自分の妻を互いに誘惑しあうことを、無上の楽しみとしてきたのである。

ブルジョアの結婚は、実際には、妻の共同所有【Gemeinschaft der Ehefrauen: 妻の共有】である。だから彼らが共産主義者を非難できたとしても、それはたかだか、「共産主義者は、偽善に覆われていた女性の共同所有のかわりに、公然と女性の共同所有を企てている」と言うことでしかない。どのみち、今日の生産関係が揚棄【aufhebung: 廃止】されれば、その関係から発生する女性の共同所有も、すなわち公私の売淫も消えてなくなることは明らかである。

### 【賃労働者の祖国についても一言】

共産主義者は、更に「祖国や国民性を廃止【abshaffen: 廃止】しようとする」と言って非難されている。

賃労働者は、祖国を持たない。彼らにないものを彼らから奪うことはできない。プロレタリアートは、まず政治権力を奪い、自らを国民的階級に高め、自らを国民として組織しなければならないから、プロレタリアート自身も、ブルジョアの言う意味ではないが、やはり国民的である。

諸民族の国家的分離と対立とは、ブルジョアジーの発展と共に、商業の自由や世界市場と共に、工業的生産とそれに照応する生活諸関係の同形化と共に、既に消えつつある。

プロレタリアートの支配は、諸民族の対立をさらに一層消すことであろう。少なくとも文明諸国の間での統一行動は、プロレタリアート解放の第一条件の一つである。

人による人の搾取を揚棄【aufgehoben: 廃止】されるのに応じて、民族による民族の搾取も揚棄【aufgehoben: 廃止】される。民族内部の階級の対立がなくなれば、民族間の敵対状態もなくなる。

### 【ある時代の支配思想は支配階級の思想】

共産主義に対して、宗教や哲学やその他一般にイデオロギー的観点からなされる非難は、いちいち論ずるに値しない。

人間の生活諸関係と共に、その社会的連関と共に、その社会的存在と共に、人間の表象や直観や概念も、一言で言えば、その意識も変化することを理解するのに、深い見識を要するだろうか？

思想史の示すところは、物質的生産と共に精神的生産も変形されること以外の何であろうか？ ある時代の支配思想は、つねにその支配階級の思想にすぎなかった。

人は全社会を革命する思想について語るが、しかしこのことは、古い社会の内部に新しい社会の要素が形成された事実、古い生産関係の解体と共に古い観念の解体が歩調を共にする事実を、語るに他ならない。

古代の世界が崩壊しかけた時、古代の諸宗教はキリスト教に征服された。18世紀に

## 新訳『共産党宣言』

キリスト教思想が啓蒙思想に屈服した時、封建社会は、当時の革命的ブルジョアジーと死闘を演じていた。良心の自由とか信仰の自由とかの思想は、知識の領域において、自由競争の支配を主張したに過ぎない。

「しかし」、と人は言うだろう、「宗教や道徳や哲学や政治や法律などの思想は、確かに歴史の発展過程の中で修正されてきたが、宗教、道徳、哲学、政治、法律は、こうした有為転変の中でもつねに自分を維持してきた。それに、自由だの正義だの、あらゆる社会状態に共通する永遠の真理というものがある。しかるに共産主義は、その永遠の真理を廃止する。宗教を道徳を廃止して、それらを新しく作らない。それゆえ共産主義はこれまでの全ての歴史的発展に矛盾するものだ」と。

この弾劾は何から来ているのか？ これまでの全ての社会の歴史は、階級対立の中を動いてきた。そしてこの対立は、時代時代でそれぞれ形を異にしていた。

しかし、階級対立の形はどうあろうとも、社会の一部が他の部分を搾取していたことは、過去の世紀の全てに共通する事実である。だから、全ての世紀の社会意識は、千差万別であっても、それがあがる共通の形式の中を動いていること、すなわち階級対立の全面的消滅を待って始めて完全に解体する意識形式の中を動いていることは、何ら驚くに当たらない。

共産主義革命は、伝統的な所有関係に対する最も根本的な決裂である。だから、伝統的な諸思想と最も根本的に決裂することは、何も不思議ではない。

だが、共産主義に対するブルジョアジーの苦情などには、もう取り合わぬことにしよう。

### 【第一歩はデモクラシーの闘いに勝つこと】

すでに以上で見たように、賃労働者階級の革命の第一歩は、プロレタリアートを支配階級に高めること、デモクラシーの闘いに勝つこと【die Erkaempfung der Demokratie: 民主主義を闘いとること】である。

[デモクラシーとは、何よりもまず代議員制民主政体という政治支配体制であり、単なる民主主義という言葉に翻訳できる政治思想ではない—直記彬・注解]

プロレタリアートは、その政治権力を利用して、ブルジョアジーから次第に一切の資本を取り上げ、一切の生産用具を国家の手に、すなわち支配階級として組織されたプロレタリアートの手に集中し、そして生産諸力をできる限り速やかに増大させるであろう。

これを為すには、無論最初は、所有権とブルジョア的生産関係への専制的侵害による他はない。したがってこの措置は、経済的には、機能不全であり永続性がないように【die oekonomisch unzureichend und unhaltbar: 不十分で不安定に】見えても、運動の進行の過程で、自分自身を乗り越えて行き、全生産様式を変革する手段として避けがたい措置なのである。

[共産主義者同盟の綱領として書かれた『共産主義者達の宣言』は、国家を利用するとの多数派の意見を尊重する立場で書かれていた。もちろんマルクス自身も、この国有

は、経済的には、機能不全であり永続性がないように見えても、運動の進行の過程で、自分自身を乗り越えて行き、全生産様式を変革する手段として避けがたい措置だとの限定付きで受け入れてはいた。実際、ソ連の崩壊を知る我々は、ここでマルクスの「機能不全であり永続性がない」との見解に示された炯眼に驚かされる。しかし、その後、株式会社の研究と実際の協同組合運動の進展の中で、マルクスは、社会的分業体制の下で、現実に行う可能な労働の分割ができるとの計画性を高く評価し、「運動の進行の過程で、自分自身（＝一時的な国有）を乗り越えて行き、全生産様式を変革する手段」として、それらを梃子にアソシエーション革命を追求する立場へと思想を深化させていったのである―直記彬・注解]

### 【具体的方針の一例】

この方針は、もちろん国情に応じて、それぞれ違うであろう。

先進諸国にとっては、しかし次の諸々の方針が、かなり普遍的に適用できるであろう。

- 一、土地所有権を廃止して全地代を公共目的に充てる。
- 二、重い累進制もしくは等級制所得税累進税を課する。
- 三、全ての相続権の廃止【Abshaffung: 廃止】。
- 四、全ての亡命者及び反逆者の所有【des Eigentums: 財産】を没収する。
- 五、国家資本と排他的独占権を持つ国民銀行を通して国家の手に信用を集中する。
- 六、運輸通信手段を国家の手に集中する。
- 七、国民工場及び生産用具の増加。共同計画による未開墾地の耕地化と全ての土壌の改良。
- 八、全ての者に労働の義務化。産業軍隊、特に農業のために創設する。
- 九、農業と工業の経営を連合して、都市と農村の差別を次第に除去する。
- 十、公立学校で全児童を無償で教育する。現在の形態における子供の工場労働を廃止する。物質的生産と教育を統合する。

[従来訳が正確でないので、ここはすべてムーア訳から訳した―直記・注]

### 【革命後はアソシエーション社会が出現】

発展の進行するうちに階級的差別が消え去り、すべての生産が、アソシエートされた個々人の各々の手に【den Haenden der assoziierten Individuen konzentriert: すべての生産が結合された個人の手】に集中されされた時、公権力は、その政治的性格を失う。

[3回目のアソシエーションの登場である。この核心的部分を、先に引用したムーア訳は、「the hands of a vast association of the whole nation」とした。翻訳すれば、「全



## 新訳『共産党宣言』

ての国民からなる巨大なアソシエーションに参加する全ての人々の各々の手に」となる。実にこれこそがマルクスのアソシエーション論の核心である。それにしても岩波文庫の訳文は全くひどいものである。何回も紹介する新井氏の指摘通り、まるで全てを統括するスターリンのような独裁者が登場するとしか読めないでたらめ翻訳ではないか—直記・注解]

本来の意味における政治権力は、他の階級を抑圧するための一階級の組織された暴力である。プロレタリアートは、ブルジョアジーとの抗争を通じて、必然的に自らを階級として組織し、革命を通して自らを支配階級となし、そして支配階級として旧生産関係を力づくで揚棄【aufhebt: 廃止】する時、さらにこの生産関係と共に階級対立の存在条件を、階級一般を、そしてそれと共に階級としての彼ら自分自身の支配を揚棄【aufhebt: 廃止】する。

階級と階級対立とを持つ旧ブルジョア社会に代って、一人一人の自由な発展が、全ての人々の自由な発展の条件であるアソシエーション社会【Assoziation: 結合体】が現れる。

[4回目のアソシエーションの登場である。今でこそ、この個所は正しく訳されていないが、1921年、大正デモクラシーの時代出版された堺枯川氏訳『共産党宣言』では、すでに「協力社会」と正訳されていたが、この訳語は残念ながら定着しなかった。

ワーカーズ・ネットのアソシエーション社会論とそれに至る道筋については、アドレス <http://www.workers-2001.org/assiannai.htm> のご参照を是非とも賜りたい—直記彬・注解]

## III 社会主義者と коммуニストの文献（略）

## IV 種々の反政府党に対する共産主義者の立場 【反政府運動への方針】

【当面の目的と利益のため闘い未来も代表】

第二章を見れば、既に組織されている労働者諸党に対する共産主義者達との関係、したがってイギリスのチャーチストや北のアメリカにおける農業改革党に対する関係は、自ずから明らかである。

共産主義者達は、労働者階級の直接当面する目的と利益を達成するために闘うが、しかし現在の運動の中にあっても、同時に運動の未来を代表する。フランスでは、共産主義者は、社会民主党と組んで保守的及び急進的なブルジョアジーと闘うが、だからといって、革命的伝統から生まれるから文句と妄想に対しては、批判的に行動する権利を放棄しない。

スイスでは、共産主義者は急進派を支持するが、この党が矛盾した要素から、一部はフランス流の民主的社会主義者から、一部は急進的ブルジョアから成ることを見落とさ



ない。

ポーランドでは、農業革命をもって民族解放の条件とする党を支持する。これは1846年のクラクフの反乱を引き起こした党である。

ドイツでは、共産主義者は、ブルジョアジーが革命に立ち上がるや、直ちにこれと共同して絶対君主制、封建的土地所有、小ブルジョアジーと闘う。

### 【階級対立の明確な意識の浸透を怠らない】

しかしながら共産主義者達は、ブルジョアジーとプロレタリアートの間の敵対的対立について、出来る限り明確な意識を、賃労働者階級の中に浸透させることを、瞬時も怠らない。

[この部分が、エンゲルスのエルフルト綱領批判によって解説され、弟子のカウツキーを通じて、ドイツ社会民主党にも浸透していった。この個所こそ、ロシアの革命運動の混乱の中で、「第三期」の清算のため書かれたレーニンの『何をなすべきか』で詳しく展開されて強調された階級意識論の核心的な根拠である—直記・注解]

それは、ドイツの労働者が、ブルジョアジーの支配と共に必ず招来される社会的及び政治的諸条件を、そっくりそのまま武器として即座にブルジョアジー向けることの出来るためであり、対抗するそれだけ多くの武器として、ドイツ労働者が直接に使用できるようにするため、またそれはドイツにおける反動的階級の倒れた後、すぐさまブルジョアジー自体に対する闘いが始められるためである。

共産主義者達は、その注意の焦点をドイツへ向ける。それは、ドイツがブルジョア革命の前夜にあるからであり、またドイツは、17世紀のイギリスと18世紀のフランスに比べて、ヨーロッパ文明一般のより進んだ諸条件のもとで、かつはるかにより発展した先進的プロレタリアートをもって革命を遂行するからであり、したがってドイツのブルジョア革命は、直ちにプロレタリア革命の直接の前奏曲となりうるからである。

一言で言えば、共産主義者達は、あらゆる所で、現存の社会的及び政治秩序に反対する全ての革命的な運動を支持する。

[ここでは、共産主義者が、現在ある反政府の賃労働者階級諸党とは別の徒党を形成しないとすることを強調しておかねばならない—直記・注]

### 【所有問題が運動の根本問題】

これら全ての運動において、共産主義者は、所有問題【die Eigentumsfrage: 所有権の問題】を、それがどの程度の発展段階であるにせよ、運動の根本問題だと強調する。

[所有の問題は人と人との関係を表す概念であり、単なる法律概念ではない—直記・注]

## 新訳『共産党宣言』

最後に、共産主義者達は、あらゆる所で、全ての国の民主的諸党の提携と協調のために努力する。

共産主義者は、自分の見解と目的を隠すのを潔しとしない。共産主義者は、これまでの全ての社会秩序を暴力的に転覆することによってのみ自分の目的が達成できると公然と宣言する。支配階級をして共産主義革命に戦慄せしめよ。プロレタリアは、この革命において、鎖以外に失うべき何物も持たない。そして得るものは全世界である。

あらゆる所のプロレタリア、団結せよ！